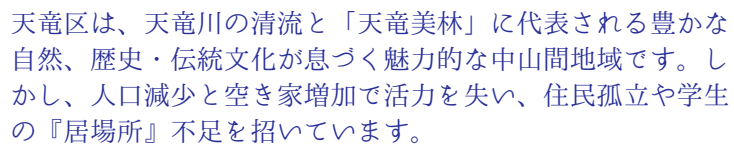


空き家が紡ぐ、中山間地域の『心の縁側』モデル

01 背景：中山間地域の課題



02 対象地域・天竜区の課題と魅力



03 クローバー通りの現状と取り組み



04 対象不動産



05 提案：ふらっとハウス

天 竜のまのたてハウス

既存の「森のマルシェきころ」が「にぎわいの拠点」であるのに対し、「ふらっとハウス」は「静かに過ごせる居場所」を目指します。この明確な役割分担により、商店街全体の多様なニーズに応え、「きころ」の賑わいと「ふらっとハウス」の安らぎが相互に補完し合い、クローバー通り全体の魅力を高めます。

3階：憩いの空間（リラックス・多目的フロア）

夏場の猛暑時には、冷房設備を完備したクールシェアスポットとして開放し、地域住民が安全に涼める場所を提供します。冬季には暖房設備を完備し、暖かく過ごせるヒートシェアスポットとしても機能させます。最も静かで落ち着いた空間として、読書や瞑想、静かな展示など、リラックスできる多目的な利用を想定します。特に、安全・快適な避暑地・避寒地としての機能は、地域の安全と活気を取り戻す一助となります。

2階：知のひろば（学習・集中フロア）

元オフィス空間を、学生がテスト前に集中して勉強できる自習スペースや、グループ学習ができるエリアとして整備します。静かで集中できる環境を最重視し、学習に最適な照明や電源を確保します。さらに、地域住民が講師となり、学生向けの学習支援やキャリア相談を行う場としても活用することで、知的な交流を深めます。

1階：『まちの縁側』としての交流空間

開放的である店舗空間を活かし、地域住民や来訪者が気軽に立ち寄れるフリースペースとします。天竜材の温もりある縁側や地元特産品コーナーを配し、地域情報掲示板や交流ノートで自然な会話や情報交換を促します。地域に不足する居場所を提供し、木工体験や手芸教室など、賑わいのあるワークショップや交流活動も展開します。

06 運営体制と資金計画

- ## 1. 運営体制：地域との協働

本プロジェクトは、高校生が探究活動の一環として主体的に運営に参画します。「放課後当番」として施設の開閉・見守りを担い、実践的な学びと地域貢献の機会を得ます。地域関係者と連携し、高校生と地域双方にメリットのある持続的な体制を構築します。

- ## 2. 資金計画：多角的なアプローチ

初期費用は、市の補助金や各種助成金、寄付等で確保します。運営費用は、物販収益、ワークショップ参加費、少額寄付により賄い、持続可能性を図ります。

- ### 3. 物件確保戦略：「短期お試し利用」

空き家オーナーの不安解消のため、「短期お試し利用」を提案し、物件の円滑な確保と本格利用へと繋がります。

07 天竜のふらっとハウスが描く未来

天竜区の空き家を『心の居場所』『天竜のふらっとハウス』として再生することで、地域に新たな未来を拓きます。高校生が主体となり地域と協働する本プロジェクトは、天竜区に『心の繋がり』と『豊かな暮らし』を育むだけでなく、全国の中山間地域が「帰りたくなる、住み続けたいなるまち」を実現する、持続可能なモデルとなることを目指します。

